令和元年度　佐賀県立牛津高等学校　学校評価計画

資料１

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
人格の向上を目指し、教養を高めるとともに、専門的な知識・技術の習得を図り、心身ともに健全で調和のとれた有為な職業人として志を高く持ち、社会貢献できる人材を育成する。	①　個々の生徒の希望や特性に応じた、きめ細かな進路指導に努め、進路内定率100%の実績を継続する。 ②　新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの授業の実践やICT機器の利活用をすべての教科、領域で推進する。 ③　全職員が主体的・対話的で深い学びの学習指導案を作成できる力を身に付け、公開授業等を通して研鑽を深める。 ④　保護者と連携して、基本的生活習慣・家庭学習の習慣を定着させる。 ⑤　部活動や各種ボランティア活動を通して、健全な心身を育成する。 ⑥　関係機関や地域と連携しながら、ニーズに応えるスキルを高める。 ⑦　海外との交流を通して、グローバル精神、グローカル精神を培う。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　個々の生徒の希望や特性に応じた、きめ細かな進路指導に努め、進路内定率100%の実績を継続する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	○進路指導	個々の生徒がその適性をもとに、積極的に進学・就職活動に取り組み、希望する進路を実現できたか。	・生徒の卒業時に、希望する進路への内定率を100%とする。	・進路講演会、進路を考える会、進路ガイダンスを実施して、自己の適性に応じた進路目標をもたせる。 ・ICTを活用した情報収集を指導する。 ・企業の人事担当者や大学・短大・専門学校などの入試担当者との連絡・連携を充実させる。 ・Classiや基礎力診断テストによる学力向上対策や個に応じて面接・履歴書作成指導等を実施する。
教育活動	●志を高める教育	専門的学習の基礎・基本は定着したか。	・ 家庭科技術検定の合格率100%を目指す。 ア　生活経営科（保育技術検定） イ　服飾デザイン科（被服製作技術検定） ウ　フードデザイン科（食物調理技術検定） エ　食品調理科（食物調理技術検定）	・指導方法や教材についての研究を行い、検定合格に向けての教職員の意識の共有化を図る。 ・技術の到達度を計る学科独自のテストを実施する。
教育活動	●志を高める教育	起業家マインドの育成ができたか。	・学校設定科目「起業家入門Ⅰ」において起業家マインドの育成を目指す。 ・地域活性をテーマとした、「夢つむぎプロジェクト」では、各学科企画力・発想力・プレゼンテーション能力を育成する内容を盛り込む。	・起業家マインド育成について教職員の意識の共有化を図る。 ・「起業家入門Ⅰ」では発表会を行い、高校生ICT利活用プレゼンテーション大会への応募をし、入賞を目標とする。 ・「夢つむぎプロジェクト」では、本校主体の活動を実施する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の促進	生徒と向き合う時間の確保はできたか。	・ 校内LAN、SEI-Netをさらに有効活用し、校務の軽減化を図る。	・ 資料のやりとりや職員間の連絡は校内LANを通して行う。また、統計データや文書などは、校務用サーバに保存し、情報の共有化を図る。 ・ SEI-Netを利用した出席統計、成績処理、指導要録の作成を行い、校務の効率化を図る。

②　新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの授業の実践やICT機器の利活用をすべての教科、領域で推進する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	生徒の基礎学力は向上したか。	・基礎力診断テストの成績でD1以上の生徒の割合を50%以上にする。	・目標規準を意識した授業内容、課題の出し方について各教科内で共通理解を図る。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	授業でのICTの有効な利活用ができたか。	・ICT研修会に研修を受講した教員の割合を100%にする。 ・ICTを利活用した授業ができる教職員の割合を100%にする。	・校内で年間2～3回の研修会を実施し、全職員が研修を受講できるようにする。 ・校外での研修会への参加を推奨する。 ・全教職員がICTを利活用した主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実践する。

③　全職員が主体的・対話的で深い学びの学習指導案を作成できる力を身に付け、公開授業等を通して研鑽を深める。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を取り入れたり、ICTを利活用した授業を行うことができたか。	・生徒の授業満足度を80%以上にする。	・全職員が主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を取り入れた授業や、ICTを利活用した授業の公開を1回以上実施し、自己評価や相互評価を継続して授業改善を行う。

④　保護者と連携しながら、基本的生活習慣・家庭学習の習慣を定着させる。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	・基本的な生活習慣、規範意識を身に付けさせることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。 ・校内だけでなく、校外でも挨拶ができるようになったか。	・学校のルール（服装、携帯電話等）や交通ルール、社会的なマナーを守ることができる生徒の割合を95％以上とする。 ・交通事故発生件数0を目指す。	・定期的な服装指導を実施し、継続した指導を行う。 ・講演会や集会等で規範意識を持つことや命の大切さを訴えていく。 ・交通講話、登下校指導、自転車点検等を行い、交通事故防止、交通マナー向上に努める。
		家庭での学習習慣を身に付けさせることができたか。	・課題を提出する生徒の割合を100％にする。 ・家庭学習を習慣としている生徒の割合を70％とする。	・生徒の実態に応じた課題の出し方については、課題の質と量を精選する。 ・学年ごとに家庭学習時間調査を行い、家庭学習を定着させる。 ・各教科において、勉強の方法を具体的に示す。

⑤　部活動や各種ボランティア活動を通して、健全な心身を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別活動	部活動や生徒会活動は活性化したか。	・部活動入部率を90％以上を維持する。 ・生徒の自主的活動を目指す。	・未加入者に対しては、加入促進の指導を継続する。 ・生徒が自主的に活動できるように、教師側の指導体制を整える。
	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。	・朝食喫食率を90％以上とする。	・朝食の大切さについては、保健だよりで発信する。 ・アンケートを行い、意識の喚起を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。
	●いじめ問題への対応	教育相談体制を整え、早期対応で未然防止を図ることができたか。	・早期発見、チームによる初期対応、保護者と連携した継続的な対応、再発の防止に努める。	・いじめに関するアンケートを年2回以上実施し、状況把握及びきめ細やかな対応に努める。 ・教職員の校内研修を1回以上実施する。 ・学年、学科の縦横の情報共有を密にし、教育相談との連携を図る。 ・授業やその他の場面で変化に気づいた
	●心の教育	豊かな心の育成を図ることができたか。	・講演会等を実施し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する。またその内容について自己の問題としてとらえる能力を培う。 ・佐賀を誇りに思う心情を高める。	・命の大切さを学ぶ教室、性に関する講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にする心を育成するための指導を実施する。 ・「佐賀語り」を有効に活用する。
	●業務改善・教職員の働き方改革の促進	合理的で効果的な活動ができたか。	・教職員の長時間労働を昨年比で10％減らす。 ・九州大会以上の大会に複数の部活動を出場させる。	・毎月の活動計画及び活動実績の確認を行うことにより、各部活動の活動内容を把握し、生徒が安全に活動を行い、教師の負担が過度とならないようにする。 ・平日は少なくとも1日を休業日とする。週休日については、土曜日、日曜日の少なくとも1日以上を休業日とする。

⑥　関係機関や地域と連携しながら、ニーズに応えるスキルを高める。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	ホームページの更新、「牛津高校さわやか新聞」の発行等情報発信を積極的に行うことができたか。	・学校の諸活動、行事についての情報を保護者、地域に伝える。 ・HPの更新、「牛津高校さわやか新聞」を発刊する。	・HPの更新に努め、「牛津高校さわやか新聞」を毎月発刊する。
		地域活動への参加を促進することができたか。	・地域行事やボランティア活動への参加者数を昨年度より増やす。	・地域行事やボランティア活動への参加を積極的に推進する。

⑦　海外との交流を通して、グローバル精神、グローカル精神を培う。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	○国際交流	・海外の高校生との交流を通して、国際的な視野をもたせることができたか。	・バンコク（タイ）をはじめ、海外の学校や高校生との交流を実施する。	・参加した生徒による報告会を実施することで、生徒全員に体験を共有させるように努める。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目